

《入間市納税貯蓄組合長賞》

税について

藤沢中学校 三年 米澤 怜奈

西暦二〇一一年、東日本大震災が起こった。私がいまだ一歳の時の事なので地震の大きさや被害を覚えていないわけではないが毎年三月十一日になるとテレビのニュースなどで当時の被害や被災地の今の現状が放送される。被災した人がボランティアの方や国からの支援を受け徐々に地震が起こる前に戻っていったら良いと言っていた。それを見ていて、ふと、この復興のため国からの支援はどこから出ているんだろうと考えたことがある。当時は学校の授業で税金によって賄われていると教えてもらった。

私は、この作文を書くにあたってその税金とは具体的にどのような仕組みで集められているのか疑問に感じ、調べることにした。東日本大震災の復興支援には政府が創設した特別税という税の一つである復興特別税で集められており、二〇一三年一月一日から二〇三七年十二月三十一日までの二十五年間、通常の所得税という、働いて稼いだお給料からその額に応じて集められる税に上乗せして集められていると分かった。私が今までテレビで見ていた人たちは皆、働いて納税をしている人たちによって助けられていたのだ。

他にも私たちの生活は税によって支えられていることが調べて分かった。私の身近なものでいうと学校の校舎や教室の机も税金で賄われているもので、公立の図書館も税金によって成り立っている。私が今まで不自由なく生活できていたのも税金が納められていたからだっただけだ。

今回、復興特別所得税を調べてみて、この国の人々は税金によってつながっているということを知った。私はまだ働いていないので所得税を支払うことはないが、消費税などの今自分が払える税金が誰かの役に立っているかもしれないと思うと払っていてよかったと感じた。また、税金の大切さをよく今まで以上に理解することができた。私が社会人になったら税金をしっかりと払っていいこうと思う。